

校長先生の子どものころのお話 第7回

5月29日(金)

とりあえず最終回

* 『大好きになった野球のこと』 *

校長 寺本 喜和

校長先生は子どものころ、小学校5年生まで大阪で生まれ育ったことは前回お話ししましたね。そのころ、我が家には白黒テレビがありました。「白黒テレビ」ってわかりますか。今テレビはカラーが当たり前ですが、当時は白黒テレビが当たり前でした。白黒テレビでは全ての映像が白黒です。赤い花でもグレーの色に見えました。当時カラーテレビは値段が高くて貧しかった我が家では買うことができず、時々友だちの家に遊びに行った時には、ちゃっかりと見せてもらうことにしていました。



01

毎年4月から10月くらいまではプロ野球が行われ、その試合をテレビで観戦するのが私の楽しみでした。今は大人になって野球場に行って時々試合を生で見ますが、当時は球場に行って野球を見ることは最高のぜいたくでしたから、テレビで野球の試合を見て楽しんでいました。大阪に住んでいましたが、テレビ中継はなぜか分かりませんが、巨人戦だけが中継されていました。関西には当時、「阪神タイガース」「南海ホークス」「近鉄バファローズ」「阪急ブレーブス」などの球団があつて球場も周辺にはたくさんあつたのですが、なぜ巨人戦しかテレビ中継しなかったのかは分かりませんでした。そんな訳で、いつも巨人の試合を見て巨人の選手にあこがれていたのでしょう。

私が小学生の頃の選手でヒーローは何ととっても、長嶋茂雄(ながしましげお)と王貞治(おうさだはる)という2人の選手でした。ON(オーエヌ)コンビと言って巨人の3番、4番打者を務めるこの二人はよくホームランを打ちチームを勝利に導きました。王選手は後にホームランの世界記録を打ち立て、「世界の王」と呼ばれました。バッターボックスで片足をフラミンゴのように上げてタイミングを取る「一本足打法」で有名な選手で、背番号「1」でした。長嶋選手は王選手ほど確実ではありませんが明るい性格と豪快なバッティングと守備で人気の選手でした。まるで、ヒマワリの花のような、光輝く存在感のある選手で、背番号が「3」でした。当時、男の子たちは野球チームにたくさんの子が所属していましたが、皆背番号「3」や「1」を欲しがったものです。私にとっても長嶋選手が一番大好きな選手でした。特に3塁を守るときの華麗な姿は「かっこいいなあ」とあこがれたものです。

大阪で生まれ育った私ですが、大の巨人ファンの少年となったのです。ある時、親せきのおじさんが甲子園球場で行われた巨人対阪神の試合を見に連れて行ってくれたことがあります。その日はナイターでした。球場は大勢のファンであふれかえっていました。3塁側に席を取りました。普通三塁側はビジター側のファンの席なのですが、甲子園球場はほとんどが黄色の帽子やシャツのタイガースファンでした。私の周りもほとんどが大阪弁で熱烈に応援するタイガースファンの人々でした。私のように黒い帽子の巨人ファンは数えるほどしかいません。

試合はうれしいことに、王や長嶋の活躍で、巨人軍がリードする展開となり、巨人の選手が打つたびに「いいぞー。」と大声で応援しました。そうするとそのたびに冷たい視線を感じました。試合が完全にジャイアンツのペースになると、よほど悔しかったのでしょうか、私の周囲のタイガースファンは口々に阪神の選手にもブーイングを浴びせて、そして私たち巨人ファンにも不満の言葉を浴びせてきました。でも、不満の言葉を浴びせてきたそのおじさんは、子どもの私には「今日はもう仕方あらへんな。よかったなあ。巨人が勝ってなあ。」と言って、笑ってくれたことを覚えていています。

東京に引っ越して一番うれしかったのは、誰にはばかることなく巨人の応援をすることができるようになったことです。今はどの球場に行っても両チームのファンが仲良く応援しているのでとても良いと思います。

